

岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 山田 和正

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

1 会の名称 学校評議委員会

2 会の構成 委員 岩佐 洋二 株式会社 岡本 常務
大橋 仁壽 株式会社 大垣鐵工所 取締役社長
川島 裕美 地域住民代表
堤 博幸 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長
南谷 清美 地域住民代表

(委員名は五十音順)

学校側 山田 和正 校長 森 保 教務主任
沢井 和弘 副校長 宮浦 英夫 生徒指導主事
水野 善介 事務部長 牧村 高憲 進路指導主事
高瀬 仁士 教頭(全) 川嵐 俊夫 工業部長
高橋 信行 教頭(全)

3 会の目的 学校運営等について学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会の開催 平成21年 7月3日(金) 13:15~15:30 岐阜工業高等学校 校長室
委員4人と学校側9人が出席

5 会の概要

主テーマ 工業高校に期待するもの、地域から学ぶべきこと

授業の見学

機械科： 2年実習
電子機械科： 3年課題研究
デザイン工学科： 3年実習

- ・機械科の実習では大変細かいところまで丁寧に仕事をしていて感心した。もっと中学生に宣伝していたら、ここにきたい生徒は多いのではと思われる。
- ・特にデザイン科は就職がないと聞いているが、あれだけの実習をしているのもっと社会に対して宣伝できればと思った。
- ・生き活きと実習に取り組む姿が好印象だった。ものづくりが好きな子にとっては、とても魅力的な学校だ。
- ・こんにちはと気持ちよく声をかけてくれる生徒が多い。明るい学校になっているなど感じた。

学校の教育現状について 報告

教育実践	学校長より 社会・地域から期待される魅力ある工業高校 工業高校の役目は地域の産業を支える人材を輩出することだと思っている。 地元の航空機産業に向かう生徒を増やすために、専門学校と連携を進める予定である。
定時制	副校長より 定時制教育活動全般について
教務部	通学区域、教育課程の特徴について
生徒指導部	挨拶指導、安全指導について
進路指導部	進路状況について
工業教育部	ものづくり・資格取得状況について
特別活動部	各種大会の記録について (教務部代理説明)

工業高校に期待するもの、地域から学ぶべきこと

- ・大きな声で挨拶をしてくれる。社会に出るとそのような輝きがない、ので生徒たちは純粋に勉強をしているのだろうと思う。全体に大変落ち着いた、生徒には常識が身に付いてきたのではないかと思われる。大人としては恥ずかしいことがあるということがわかってきたのではないだろうか。
- ・大人の常識を企業人も学校もきちっと話てやれば、生徒もわかるような気がする。かつては定時制にいくのが怖かった時期があったが、今はそんなこともない。落ち着いたような気がする。
- ・公共施設や機関でのマナーは、よくなってきたと思う。地面への座り込みや飲み残しなどの放置もほとんど見られなくなった。社会の一員としての健全化への教育が実ってきたのではないか。
- ・普通校なら受験に向けての指導だけですむが、工業は多くの分野を網羅しなければならないから大変だ。会社ではいかれた機械は捨ててしまえばいいが、人はそういうわけに行かない。学校は保護者や生徒、社会等と多岐にわたって関わりを持つ。今やっていることは十二分にやってみえる。たいへんなことがよくわかった。ものづくりに関する資格取得への取り組みは素晴らしい。先生方の技術習得や指導力向上への意欲にも感心する。しかし、工業界の技術は年々高度化しているので、常に新技術への勉強をして、その一端を生徒達に伝えていただきたい。
- ・細かいところはよくわからないが、学校の先生は大変だなと思った。とても自分ではできない仕事だろうと思う。年に2、3回来校して、生徒の顔を見てみると青年らしい顔つきをして、大きな声で挨拶をしてくれる、社会に出るとそのような輝きがない、ので生徒たちは純粋に勉強をしているのだろうと思う。
- ・給料の縛りとか役職とか、またある程度の年齢の社員ばかりなので会社はそんなに大変ではないが、学校は大変だと思う。常識の延長線上に個性がある。個性は個性であるがしっかりと、躰をしてほしい。家庭での躰、学校での躰、社会での躰の三位一体の躰が大事だと思う。家庭の躰の放棄はだめである。今のような世の中にするつもりはなかったが今のような世の中を元の世の中に直すには3倍かかる。学校の先生も家庭も地域社会も皆で協力してよりよい社会にすべきだ。あるの話だが、今の管理職は人を叱れないと言っていた。感情的に怒る人はいるが、感情的に叱るのではなく、教諭することが大事である。10回言わなければわからなければ、そこまでの覚悟で話をしなければならない。
- ・笠松町在住で出勤時に朝の登校風景を何年か見てきたが、数年前に比べて遅い時間に登校する生徒が居なくなり、遅刻が減ったような気がする。子供の高校時代を振り返ると先輩後輩の関係がよかったと思う、会社に入って役立っていると思う。
- ・元担任が会社にもきていただいて、頭髪の話などしてくださった。高校時代は厳しかったが、社会人になっても会社の常識の中での髪型にしなければと話してくださった。